

**TSUMUGI
再発行に
よせて**

2016年4月 加賀市医療センターは開院し、今年5年目を迎えました。その間、加賀市の医療・介護環境は厳しさを増し、さらに「人生会議」が示す自分の意思決定がより尊重される時代になりました。また、新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の事態で、新しい価値観と生活が始まろうとしています。

この度、新しく、病院事業管理者に 清水康一 医師 が着任いたしました。これからの加賀市の地域医療の在り方、当院が果たす役割を皆様と共につくっていききたい、そんな思いが「TSUMUGI」に込められています。

Q1

4月に着任され、加賀市の医療・介護環境についてのご感想はいかがですか？

未だ印象でしか話せませんが、加賀市の医療・介護環境は十分とは言えないものの決して悪くはないと思います。宮元市長さんを始め議会の方々も医療・介護・福祉には力を入れて頂いているように思います。将来的には在宅医療をもっと充実させていく必要があると思います。

Q2

加賀市医療センターの印象はいかがですか？

加賀市医療センターの開設に携わった方々の思いが、いたるところに感じ取れます。非常に合理的な考えのもとに造られていると思います。自分自身の行動範囲が限られており、まだ知らないところも多いので、これからいろんなところを見て回りたいと思います。

前任の病院は超がつくほど忙しい病院だったせいで、加賀市医療センターはのんびりとした印象があります。それは決して悪いことではありません。そして、伸びしろはまだまだ十分にあると思います。

Q3

この広報誌「TSUMUGI」再発行に込めた思いをお聞かせください。

加賀市医療センターが、今どんな医療を行っているのか、どこまでできるのか、何を得意としているのか、あるいはどのような取り組みを行っているのか、といったことを地域の皆さんによく知ってもらうための広報活動は大変重要なことだと思っています。病院は営利を目的としているわけではありませんから集客のための宣伝活動とは違いますが、広報誌は受診や紹介の参考にしてもらうためのツールのひとつだと考えています。

Q&Aコーナー



広報誌や医療の現場についていろいろお聞きしました！

病院事業管理者
清水 康一 医師

Q4

新型コロナウイルス感染症の今回の事態を受け、どう感じていらっしゃいますか？

全国どの都道府県でもそうですが、これまでに今回の新型コロナウイルスほど大規模な感染症の流行を経験したことがなく、そのため感染症指定医療機関が定められてはいても形だけのものであったように思います。今回の新型コロナウイルス感染症のような規模で流行が起これば、設備、機能、人材などいずれも全く足りていないことが判明しました。今後には備えて行政は何らかの改善策を制定すると思いますが、加賀市医療センターとしてもそのような事態を想定した備えを行っておく必要があります。物資の確保・備蓄であったり、スタッフのトレーニングであったり、ということです。

Q5

これからどのような医療を目指していきたいとお考えですか？

地域の住民の皆さんや医療機関の皆さんのニーズに応えられるような医療サービスの提供を目標とすべきだと考えています。質の高い医療サービスの提供はもちろんですが、地域の皆さんが安心して暮らせる、医療・介護・予防・住まい・生活支援を包括的に確保することができるように、加賀市医療センターが中心的な役割を担わなくてはならないと思います。

新型コロナウイルス感染症を 拡大させないための新たな医療様式

“院内に感染を持ち込まない、広げない、気を緩めない”(新型コロナウイルス危機管理委員会) 現在当院に貼られている職員向けポスターです。

市民や各事業所からの、支援物資やあたたかいメッセージ。医療人としての使命を果たすため、職場へ送り出して下さる職員家族の支え。

私達は、たくさんの勇気をいただきました。ありがとうございます。
これからも、市民の健康を守るために、職員一丸となって感染対策に取り組んでいきます。



1 感染管理室から



2020年1月“武漢で原因不明の肺炎発症”と言われ始めた時から、院内の感染対策は始まりました。検査や治療薬が確立されていないことや、自分達の身を守る防護具(マスクやガウン)の不足で、迫り来る感染症に恐怖を感じました。

未知のウイルスに対する情報収集や戦略会議、感染防護策の教育など、情報交換と発信を繰り返してきました。

今後に備え当院では、職員の検温、マスクの着用、手指衛生の徹底、フィジカル・ディスタンス、環境の消毒を継続していきます。

また、入院患者さんへのご面会など、流行状況に応じて制限させていただいております。ご不自由をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

地域一丸となって、窮地を乗り切りましょう。



2 発熱外来

4月30日から加賀市医師会、加賀市役所保健師の方々の協力のもと、発熱外来が運用開始になりました。

6月22日時点で、229名が受診しました。



3 遠隔お見舞い「アバター!」



新型コロナウイルスの感染拡大により、オンラインを使った面会が試行されました。家族が直接、顔を合わせられない状況が長期化する中、安心感につながっているとの声が聞こえます。

6月末時点の利用者数 25名(延べ)

利用時間

平日午後1時から午後5時15分
完全予約制(土日祝を除く)

TOPICS

昨年度の「在宅医療・介護連携の多職種連携研修」における加賀市の取り組みで「ACP」の普及を進めてきました。当院でも少しずつ意識の高まりを感じます。

6月24日(水)、第9回研修医症例検討会で「ACPについて」が取り上げられました。

第9回 研修医症例検討会

日時: 2020年6月24日(水)
17:00~(30~45分程度)
場所: KMCホール
担当研修医: 森永先生
専門医: 内科 水富先生
内容: 「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について」



基本理念

「おもしろい」

私たちは、市民とともに、市民中心の医療を提供し、市民の健康を守ります

基本方針

1. 信頼される最適な医療を提供します
1. 救急搬送をことわらない体制を目指します
1. 将来を担う優れた医療人を育成します
1. 地域に根付いた医療を実践します

編集後記

加賀市医療センターが開院してはや5年が経ちました。この間に加賀市の環境や世の中の価値観が変わってきているのを感じています。この広報誌で地域の医療や介護の在り方を考えていけたらと思います。

発行 加賀市医療センター 地域連携センターつむぎ

〒922-8522 石川県加賀市作見町36番地
TEL 0761-72-1188 (代表) TEL 0761-76-5133 (直通)
E-mail renkei@city.kaga.lg.jp http://www.kagacityhp.jp

